

松尾会長挨拶（所信表明）

ただ今、第 35 代会長に満場のご推挙をいただきました佐賀県有田町議会議長の松尾文則です。

全国町村議会議長会創立 70 周年、さらには令和改元の記念すべき年に全国会長という大役を仰せつかり、この上なく光栄に感じるとともに、その職責の重大さを痛感し、まさに身の引き締まる思いであります。

役員の皆様と力を合わせ、町村の振興、そして全国町村議会議長会の発展のため、全力投球して参る所存ですので、各都道府県会長の皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

さて、私の生まれ育った佐賀県有田町は、日本磁器発祥の地として名を馳せ、2016 年に創業 400 年を迎えた有田焼をはじめとする肥前窯業圏

中枢の町であります。

地形的には、黒髪山系と国見山系に挟まれていることから、棚田など良好な景観を有する農業の町でもあります。

しかしながら、近年では担い手の高齢化や後継者不足などの理由によって、窯業及び農業従事者も年々減少しているのが実情です。

これを克服するため、有田町では町をあげて多様な製品開発や観光との連携による産地の活性化に取り組んでいるところでもあります。

我が町に限らず、多くの町村は、農山漁村や中山間地さらには離島などにあり、都市とは地理的に離れているものの、地場産品や観光資源に恵まれ、豊かな国民生活を支えている魅力的な地域であります。しかしながら、少子化に伴う社会減と、都市部への人口流出によって、多くの町や村では過疎化が進み、地域の活力が削がれていくという

共通の課題を抱えております。

この地方共通の課題に対しては、国と地方の協力体制のもと「地方創生」に向けた取組みが進められておりますが、これを更に進化させるためには、地方が事業展開をしやすい制度設計及び予算措置を行っていただく必要がありますので、各都道府県会長各位から頂戴したご意見を的確に国に届けて参りたいと考えております。

「地方自治は民主主義の学校である。」という有名な言葉があります。

これは、二元代表制を採り、行政と議会議員を直接選挙で選ぶことのできる地方自治のしくみが、住民の意見を反映させやすく、民主主義の理想の体制であることを示した言葉です。

しかしながら、その理想ともいえる体制が今、「議員のなり手不足」という問題によって、根底

から覆される危機に晒されています。

この問題に対しては、櫻井前会長に精力的に取り組んでいただき、学識者委員会による「議員報酬等のあり方」に係る報告書を公表されたほか、国の政策会議や地方制度調査会において、町村議会及び町村議会議員の抱える問題の本質を的確に訴えていただきました。

今後は、私とその役目を引き継ぎますが、櫻井前会長の熱い思いを踏襲し、この問題の根底にある議員定数や議員報酬の適正化、並びに多様な人材が議員に立候補できる仕組みづくりに尽力して参りたいと考えています。

東日本大震災から8年余りが経過しましたが、その間にも、熊本地震、北海道胆振東部地震など大きな地震による災害が発生しています。

また、昨年、一昨年と豪雨による土砂災害、浸

水被害が発生し、つい先日も九州の広い範囲で大
雨となり、多くの方が避難される状況と相成りま
した。

我が国は、いつどこで、どのような自然災害が
起ころうとも不思議ではない地理的環境に置かれ
ておりますので、被災地の復旧・復興対策と並行
して、これから起こり得る大規模災害への対策を
強力に推進して参りたいと考えております。

このほかにも、町村議会議長会として取り組む
べき課題を挙げれば枚挙に暇がありませんが、い
ずれの課題に対しても、適宜、適切な機会を捉え
て、政府・国会、政党に対し、町村の声を届けて
参りたいと思っております。

70年の永きにわたり、歴代会長が刻まれた輝か
しい歴史をしっかりと受け継ぎ、町村議会の全国
組織として、各都道府県町村議会議長会を通じて

全国 926 の町村議会と連携を図りながら、更なる
町村の発展に向け、鋭意努力して参りますので、
重ねて、皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、
簡単ではございますが、会長就任にあたってのご
挨拶とさせていただきます。